

株式会社あんすりー 介護初任者研修 平成 28 年度

カリキュラム表(講義と演習)

科目の細目	講義と演習の実施方法
1. 職務の理解(6 時間) 通学 6 時間+通信なし	
1-1 多様なサービスの理解 (3 時間)通学のみ 3 時間	介護保険サービス、介護保険外のサービスなどについて講義・演習を行いながら、視聴教材(DVD)を用いて、受講生が理解できるように視聴してもらう。
1-2 介護職の仕事内容や働く現場の理解 (3 時間)通学のみ 3 時間	各種の介護サービスなどにおける介護現場でのそれぞれの仕事内容、サービス提供現場の具体的なイメージ、ケアプランに基づき開始されるサービス提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ、他職種との協働について講義並びに演習を行う。
2. 介護における尊厳の保持・自立支援(9 時間)通学 1.5 時間+通信 7.5 時間	
2-1 人権と尊厳を支える介護 (5 時間)通学 0.5 時間+通信 4.5 時間	人権と尊厳について講義・演習を行う。介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支えている専門職であることを自覚する。虐待防止法・身体拘束禁止などの行ってはいけないこと行動例を理解する。また介護分野における ICF の基本的考え方を示し、生きがいに繋がる生活の質(QOL)の考え方についてグループで討議する。
2-2 自立に向けた介護 (4 時間)通学 1 時間+通信 3 時間	自立支援・介護予防について講義・演習を行う。利用者の自立支援とはどういうことなのか、本人ができること(残存能力)についてグループワークを行なう。
3. 介護の基本(6 時間)通学3時間+通信3時間	
3-1 介護職の役割、専門性と多職種との連携 (2 時間)通学 1 時間+通信 1 時間	介護環境の特徴の理解、介護の専門性、介護にかかわる職種について講義・演習を行う。事例や体験談を交えて介護職への理解や多職種との連携についての重要性を学んでもらう。
3-2 介護職の職業倫理 (1 時間)通学1時間のみ	職業倫理について講義・演習を行う。介護職における行動規範や社会的な責任や姿勢について理解を深める。(介護福祉士倫理要領などを示し、グループワークを行う。

3-3 介護における安全の確保とリスクマネジメント (2 時間) 通学1時間+通信1時間	介護における安全の確保とリスクマネジメント・事故防止・安全対策について講義・演習を行う。介護事故における危険予知(ヒヤリハット)について事例を用いて、安全対策の視点を考えてもらう。感染症対策における「衛生的手洗いの基本」について実施してみる。
3-4 介護職の安全 (1 時間) 通信のみ 1 時間のみ	介護職の心身の健康管理についての考えながら、介護職のセルフケアやその予防的取り組みについて考えていく。
4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携(9 時間) 通学時間 1.5 時間+通信7.5時間	
4-1 介護保険制度 (3.5 時間) 通学時間 0.5+通信3時間	日本の高齢社会の状況・介護保険制度の創設の背景や状況・課題について講義・演習を行う。市町村の発行するパンフレットなどで理解を深める。
4-2 医療との連携とリハビリテーション (2 時間) 通学 0.5 時間+通信 1.5 時間	リハビリテーション医療の基礎的理解を深め、リハビリテーションを構成する職種と役割・連携についてグループワーク交えて、講義をする。
4-3 障害者自立支援制度およびその他の制度 (3.5 時間) 通学 0.5 時間+通信 3 時間	障害者福祉の背景と動向を理解する。障害者自立支援制度・その他のサービスについて考えていく。
5. 介護におけるコミュニケーション技術(6時間) 通学3時間+通信3時間	
5-1 介護におけるコミュニケーション (3 時間) 通学 1.5 時間+通信 1.5 時間	信頼関係を形成するための基礎の講義をして、他者理解と共感・受容について、具体例を用いて、演習を行う。
5-2 介護におけるチームのコミュニケーション(3 時間) 通学 1.5 時間+通信 1.5 時間	介護に係る情報の共有化の手段として、記録の意義・目的などを理解し、報告の必要性・コミュニケーション技術の実際について理解する。実際に事故報告書を記載してみる。
6. 老化の理解(6 時間) 通学3時間+通信3時間	
6-1 老化に伴うこころとからだの変化と日常 (3 時間) 通学 1.5 時間+通信 1.5 時間	加齢・老化に伴う生理的变化や日常生活への影響についての基本的な理解を深める。

6-2 高齢者と健康 (3時間)通学 1.5 時間+通信 1.5 時間	高齢者の疾病と生活上の留意点及び多い病気についての解説をする。また、高齢者の健康状態の確認ができるように場面を例に解説する。
7. 認知症の理解(6 時間)通学3時間+通信3時間	
7-1 認知症を取り巻く状況 (1.5 時間)通学 1 時間+通信 0.5 時間	認知症のケアの理念について講義・演習を行う。その人らしさを支援するパーソンセンタードケアについて講義・演習を行う。
7-2 医学的側面から見た認知症の基礎と 健康管理 (1.5 時間)通学 1 時間+通信 0.5 時間	認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアポイント、健康管理等の必要性について講義・演習を行う。
7-3 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 (2 時間)通学 0.5 時間+通信 1.5 時間	認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴、認知症の利用者への対応について講義・演習を行う。テキストの事例を用いて、グループ討議を実施する
7-4 家族への支援 (1時間)通学 0.5 時間+通信 0.5 時間	認知症の需要過程での援助方法、レスパイトケアについて講義・演習を行う。
8. 障害の理解(3時間)通学1.5時間+通信1.5時間	
8-1 障害の基礎的理解 (1時間)通学 0.5 時間+通信 0.5 時間	障害の概念と ICF,障害者福祉の基本理念などについて講義・演習を行う。ICF の構成要素について、図表を使って確認し、「できている状態」を伸ばす支援を深める。
8-2 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 (1時間)通学 0.5 時間+通信 0.5 時間	身体障害、知的障害、精神障害等の基本的理解を深め、支援の方法等の講義・演習を行う。片麻痺を疑似体験してみる。障害の受容について、利用者の立場に立った視点を考えてみる。グループワークで討議してみる。
8-3 家族の心理、かかわり支援の理解 (1時間)通学 0.5 時間+通信 0.5 時間	家族の心理的負担(ストレス)をはじめ、家族への支援について講義・演習を行う。

9. こころとからだのしくみと生活支援技術(75 時間)	
●基本知識の学習(13 時間)通学1時間+通信 12 時間	
9-1 介護の基本的な考え方 (3 時間)通学 1 時間+通信 2 時間	理論に基づく介護、法的根拠に基づく介護についての講義・演習を行う。 根拠に基づいた介護とは事例等用いて示す。
9-2 介護に関するこころのしくみの基礎的知識 (4 時間)通信 4 時間のみ	学習と記憶、感情と意欲の基礎的理解、自己概念と生きがい、人体各部の名称と動き、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、こころやからだの各持ち方が与える影響について講義・演習を行う。
9-3 介護に関するからだのしくみの基礎的知識(6 時間)通信 6 時間のみ	人体各部の名称と動きに関する基礎知識、骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、こころとからだを一体的に捉え、利用者の様子の普段との違いに気がつく視点について講義・演習を行う。基本的なバイタル測定の演習を行う。
●生活支援技術の講義・講習(50 時間)通学 50 時間のみ	
9-4 生活と家事 (3 時間)	家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援について講義・演習を行う。掃除や洗濯、衣類補修の演習を行ってみる。又、栄養摂取について、「食事バランスガイド」を使って 演習してみる。
9-5 快適な居住環境整備と介護 (6 時間)	快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者、障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法、介護保険による住宅改修等について講義・演習を行う。
9-6 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 (6 時間)	整容に関する基礎知識について講義を行う。 整容の各支援技術について演習を行う。

<p>9-7 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (6 時間)</p>	<p>移動、移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援の講義を行い、支援方法についての演習を行う。</p>
<p>9-8 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (6 時間)</p>	<p>食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援の講義を行い、支援方法についての演習を行う。</p>
<p>9-9 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (6 時間)</p>	<p>入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法の講義を行い、支援方法(特に身体清拭)についての演習を行う。</p>
<p>9-10 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (6 時間)</p>	<p>排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法の講義を行い、支援方法についての演習を行う。</p>
<p>9-11 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 (6 時間)</p>	<p>睡眠に関連する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法の講義を行い、支援方法についての演習を行う。</p>
<p>9-12 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 (5 時間)</p>	<p>終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合う心の理解、苦痛の少ない死への支援の講義を行い、事例や体験等含め演習・グループワークを行う。</p>
<p>● 生活支援技術演習(12 時間) 通学 12 時間のみ</p>	
<p>9-13 介護過程の基礎的理解 (6 時間)</p>	<p>介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチについて講義・演習を行う。個別援助計画の作成演習により展開に理解を深める。アセスメント、介護計画、介護手順の作成。</p>

9-14 総合生活支援技術演習(6時間)	生活の各場面での介護について、ある状態の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する視点の流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の提供を目指す。事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題(一事例、1.5時間程度で上のサイクルを実施する)
10. 振り返り(4時間)通学 4時間のみ	
10-1 振り返り (2時間)	研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づいた介護についての要点を各受講生がそれぞれにまとめ、グループワーク等で討議する。
10-2 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 (2時間)	今後、継続的に学ぶべきこと、研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例を紹介する。(OFF-JT、OJT等)